「早川君と槲葉さん。ゆかいな作家とモナリザと。」

僕は美術について何も知らない…芸術って何？そう聞かれても、正直どう答えていいのか解らない。休日に美術館に足を運んだ事もなければ、失礼な話、美術に関する本や資料を買ったこともない。

やまなみ工房で働かせていただいて早いもので20年が過ぎた。最近こんな質問をよく受ける。「なぜ芸術活動を始めたのですか？」「芸術活動で大切にしている事はなんですか？」・・・正直芸術活動をしている自覚が無いのだから答えようがない。全く困ったものだ。

そんな僕だけどモナリザという絵はなんとなく知っている。

ある日そのモナリザの大きなポスターが僕の職場、「やまなみ工房」にやってきた。

やまなみには、芸術に疎いこんな僕でも心揺さぶられる面白い絵をいっぱい描く人がたくさんいる。

でもみんなはきっとモナリザの事は何も知らないだろうな。

彼らは毎日好きな時間に好きなことをする。散歩したりドライブに出かけたり、歌ったり笑ったり怒ったり。そして時々土をこねたり、紙にお気に入りの道具で自分を表現する。ただ自分らしく…。

そんな彼らに先生はいない。描き方や作り方を教える人もいない。彼らが愛してやまない二人のスタッフが時間を共にするだけだ。スタッフだからといってそこに上下の関係はない。深い信頼と敬意から、互いに生きる事への活力を与え合う大切な存在だ。

ある日、二人はそっとポスターを部屋の壁に貼った。見向きもしない人、おばさんと言って挨拶して茶化す人、感じ方を強要する事も無いので反応は様々だ。彼らは二人の前では安心し自分をさらけ出す。そして自分の存在を誰よりも認めて欲しいとばかりに、研ぎ澄まされた緊張感と集中力を発揮する。絵を描く事は二人に気持ちを届ける手段なのかもしれないね。

いつしか誰かが壁に貼られたモナリザを描いた。二人は愛情豊かに素直な気持ちを作者に伝える。するとどうしたことか、同じ空間にいる彼らは我も我もと壁のモナリザを描き出した。どの絵からも正直モナリザは想像し難い。でも僕にはモナリザで感じられなかった素晴らしさをどの絵からも感じた。自分を信じ一生懸命生きる事、目の前の人を信頼すること、思いやり…そして愛すると言う事。

この絵達が人の目に触れるとき、芸術性だけではなく、本当に美しい人とは何か、人として大切な事とは何か。一つの答えが伝わる気がした。
僕は美術の事は何も知らない。芸術家でもなければ評論家でもない。しかし作品がもたらす大きな力を信じ、これからも早川さんと槲葉さん、ゆかいな作家達を心から愛し、僕も彼等から必要とされるよう頑張りたい。

彼らがいろんな人に出会い、いろんな経験をし、自分らしく伸び伸びと個性豊かに生きること。そして日々の営みの中から自然に生まれる行為や表現を誰よりも大切にしながら。

彼等の生き様や作品は僕の心をこんなにも豊かにし成長させてくれるのだから。

滋賀県甲賀市甲南町葛木872
社会福祉法人やまなみ会
やまなみ工房
施設長　山下　完和